

オーディオ実験室収載

音源の比較試聴(26) —アメリカンポップス—

1. 始めに

前報(25)に引き続き、各種音源の再生経路に関するアースアキュライザーを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

各種音源の再生経路に関するアースアキュライザーを含む種々の再構成はアースアキュライザーの活用(6)で述べたとおりで、さらにレコードアンチスタティックと Magic Mat II、スピーカーアキュライザーへの Crystal Ep-G、ZANDEN Model 120 の仮想アースの Crystal E から Crystal E-G への変更などの対策を追加しています。今回もそれらの対策の効果を、音源を替えて総合的に確認していきます。

音源は、下記の音源を聴いていきます。

アナログ盤

Verve 002393302

Wall Flower

Diana Krall

CBS SONY SONX 6007

Souvenir for Youth

The Brothers Four

Capitol Record CP-9318B

The Kingston Trio

Kingston Trio

CBS SONY SONX 60136

The Bridge over Troubled Water

Simon and Gurfunkle

RCA SRA-9501-02

John Denver Special 21

John Denver

A&M Record CP 2001

見つめあう恋

Carpenters

3. 音源の比較試聴の試聴結果

今回の試聴目的は、普段聴くことのないアメリカンポップスのイコライザー特性の確認で、上記の盤それぞれについてイコライザー特性を ZANDEN のリストを参考に聴いていきます。

Verve 盤の Diana Krall は、ZANDEN のリストによれば、オリジナル盤は、Columbia、R、第 4 時定数 Low ですので、この条件で *desperado* を聴いてみましたが、違和感はなく、Krall のハスキーボイスとピアノが中央に凝縮しています。

CBS SONY 盤の The Brothers Four は、ZANDEN のリストでは、オリジナル盤の Columbia、R、第 4 時定数 Low と国内盤の Columbia、R、第 4 時定数 High があり、*Seven Daffodils* を聴いてみましたが、国内盤であり、後者で 4 人の定位もハーモニーもよくギターも自然ですが、前者では 4 人のハーモニーもギターもぼやけます。

Capitol Record 盤の Kingston Trio は、ZANDEN のリストでは、オリジナル盤の例しかありません。東芝音工の国内盤でもオリジナル盤の EMI、R、Low を、TOM DOOLY に適用してみましたが、Trio の位置もしっかりと定位し、ギターも自然です。CBS SONY 盤の Simon and Garfunkel は、ZANDEN のリストでは、オリジナル盤の Columbia、R、第 4 時定数 Low と国内盤の Columbia、R、第 4 時定数 High があり、*Bridge over Troubled Water* を聴いてみましたが、国内盤であり、ピアノに余分な響きがのらない後者の方が自然な印象でした。

RCA 盤の John Denver は、ZANDEN のリストでは、プレスによって種々のイコライザー特性がありますが、日本ビクターの EMI、R、第 4 時定数 Low の条件で、*Take me home, Country Road* を聴いてみましたが、ボーカルが中央に位置し、バックのコーラス、左右に分かれたギターとバンジョーも自然です。

AM Record 盤の Carpenters は、ZANDEN のリストではオリジナル盤の Columbia、R、第 4 時定数 Low と国内盤の DECCA、R、第 4 時定数 Mid があり、両者を比べてみながら *one more time* を聴いてみましたが、キングの国内盤ですので、後者の方が自然な印象です。この Carpenters は、吉田苑の試聴会では、Columbia カーブの逆相の例とされていましたが、オリジナル盤だったかもしれません。

4. まとめ

アメリカンポップスだから Columbia が多いのではないかと予想していましたが、国内盤ではそうでなかったりしました。また、最近収録の Diana Krall は、RIAA の正相でなく、Columbia の逆相で予想外でした。

以上

